

武蔵野市第5期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画専門部会（第1回）

議事要旨

■日時：令和5年5月16日（火）午後7時～午後9時

■場所：武蔵野市立保健センター 地下1階 多目的ホール

■出席委員（敬称略）：

北島勉（部会長）、川南公代（副部会長）、大岩ひろみ、大田静香、小俣裕子、菅野淳子、倉島公明、中嶋建一郎、野口弘之、長谷川ひとみ

【オンライン参加】河西あかね、原純也、宮原隆雄

【欠席】青木滋夫

■事務局：

武蔵野市健康福祉部長、保健医療担当部長兼健康課長、地域支援課長、障害者福祉課長、地域保健調整担当課長、新型コロナウイルスワクチン接種担当課長、保険年金課長、保健センター改修・経営改善担当課長（武蔵野健康づくり事業団派遣） 他

■配布資料

資料1	武蔵野市第5期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画専門部会委員名簿
資料2	①武蔵野市健康福祉施策推進審議会設置条例について ②武蔵野市健康福祉施策推進審議会設置条例 ③武蔵野市健康福祉施策推進審議会設置条例施行規則 ④武蔵野市第4期健康福祉総合計画・第6期地域福祉計画専門部会等設置要綱 ⑤武蔵野市健康福祉施策推進審議会、武蔵野市第4期健康福祉総合計画・第6期地域福祉計画専門部会及び各個別計画専門部会 委員構成
資料3	武蔵野市第5期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画専門部会の公開・運営に関する確認（案）
資料4	武蔵野市第5期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画専門部会傍聴要領（案）
資料5	・令和5年度 武蔵野市健康福祉総合計画・各個別計画策定 スケジュール（案） ・武蔵野市第5期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画 策定スケジュール（案）
資料6	武蔵野市 市民の健康づくりに関するアンケート調査の報告【概要版】
資料7	妊娠届出書、乳幼児健診票の集計の報告【概要版】
資料8	①武蔵野市第3期健康福祉総合計画・第5期地域福祉計画 施策体系 ②武蔵野市第4期健康推進計画・食育推進計画 施策体系 ③武蔵野市自殺総合対策計画（平成31年3月策定） 施策体系 ④武蔵野市第4期健康推進計画・食育推進計画及び武蔵野市自殺総合対策計画（平成31年3月策定）の目標値の達成状況
資料9	武蔵野市第六期長期計画・調整計画討議要綱 抜粋
資料10	近年の動向の整理

（当日机上配布）参考資料

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶

我が国では、長寿命化が進み、また人生 100 年時代が政策的に本格的に到来すると言われる一方、少子高齢化が急速なスピードで進んでいる。今後様々な社会の変化が予想される中、様々なライフステージにおいて一人一人が健康で生きがいの持てる地域社会づくりが重要であり、重視されると考えている。国においては、健康日本 21 の第二次、東京都においては、平成 25 年に東京都健康推進プラン 21、こちらも第二次を策定し、健康に関わる施策が進められている。

このような中、武蔵野市においては平成 16 年 4 月に「武蔵野市健康推進計画」を策定し、平成 21 年からは武蔵野市健康福祉総合計画に包括する形で、健康なまちづくりを目指すための基本理念に基づく様々な健康施策を実施してきた。直近では新型コロナウイルスの感染拡大という健康危機が発生し、市としても、武蔵野市医師会、武蔵野赤十字病院と協力し、発熱外来を行う医療機関の確保や、また国が定めるワクチン接種などに取り組んできた。

今現在では、皆様ご承知のように 5 月 8 日から、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置付けが変わったが、ワクチン接種は継続して取り組んでいく。今後はしばらく高齢者の方という形で方針が決定しているので国の方針に基づいて、ワクチン接種は継続して、無料で取り組んでいく。

またこの度、令和 5 年度をもって現計画の期間が終了となることから、市民の皆様のさらなる健康意識の向上を図り、健康の増進と食育の推進を一体的に進めるため、食育の推進やさらに母子保健事業にも重点を置いた、「第 5 期健康推進計画・食育推進計画」の策定を行う。さらに今回から自殺総合対策計画についても、心の健康づくりの観点から一体的に施策の検討を進め、特にコロナ禍の影響による見直しも必要であることから、同時に改定を行いたいと考えている。

計画策定にあたっては、武蔵野市第 6 期長期計画・調整計画策定委員会で討議要綱としてまとめられている内容も踏まえ、「誰もが、より長く元気に暮らすことができる社会」の実現に向け、市民・地域の皆様がいきいきと過ごすことができる取り組みを進めていきたいと考えている。

心身ともに健康であることは、充実した人生を過ごすために欠かせないことであり、また、日々の「食」は、単に栄養を補給するだけではなく、人生を豊かにするものと考えている。健康と食は切っても切れない深い関係にあり、生きがいを感じ、生涯にわたり健やかで心豊かな毎日を過ごすことは、誰もが望む共通の願いである。

人との繋がりを大切に、市全体で健康づくりに取り組んでいく健康なまちづくりを目指して、地域の関係機関等と連携・協働し、計画内容の効果的かつ着実な推進に努めていく。本計画の策定を進めるにあたり、貴重なご意見・ご提言を皆様から頂戴しながら、本計画を策定していきたいので、約 1 年間という長い期間となるが、委員の皆様にはぜひ、活発なご議論をお願いしたい。

- 4 配布資料の確認
- 5 委員及び事務局自己紹介委員及び事務局自己紹介
- 6 武蔵野市健康福祉施策推進審議会及び専門部会について
事務局より資料に沿って説明
- 7 部会長・副部会長選出

互選により北島勉部会長、川南公代副部会長を選出

8 議事

- (1) 武蔵野市第5期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画専門部会の公開・運営に関する確認について
- (2) 武蔵野市第5期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画専門部会傍聴要領について
《承認》
- (3) 武蔵野市第5期健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画 策定スケジュールについて
・専門部会を計6回開催予定
・10月に第5回(中間まとめ)、11月に健康福祉施策推進審議会・合同部会、12月に意見交換会・パブリックコメント、令和6年2月に市長答申

- (4) 実態調査等の概要について
事務局より資料に沿って説明

【質疑】

委員：平成28年と今回は同じ配布数、配布方法か。

事務局：基本的には同じで、無作為抽出で2,000名の方に配布している。回収率は42.7%と記載の通りだが、今回からWebによる回答方法を増やした。

委員：過去1年間の健康診査、人間ドックの受診状況について、前回との比較がない。二つ目の歯科健診の受診状況は前回と比較しているが、比較が難しかったのか。

事務局：前回と似たような設問となっているが、今回人間ドックについて少し設問を変更した関係で単純な比較ができなかったため、このような記載になっている。

副部会長：31ページの各種がん検診について、これは(n)が854ということだが、対象ではない方々は受けていないという数になると思うが、選択肢の「知っているが受診したことがない」という数に入ってくるという理解でよいか。

事務局：「アンケート調査報告書」の84ページ等をご覧いただくと、各がん検診の結果が載っているが、各対象の年齢が違うので、対象年齢についてこちらの四角の枠で記載している。対象年齢についての結果は、こちらの枠の中を確認していただくことになる。84ページが胃がんエックス線ということで、86ページ以降も検診についてそれぞれの対象年齢の枠を記載している。

副部会長：実際に対象者ではない場合に無回答とか受診したことがないと回答するしかないが、その対象年齢によって分析すると違う結果や傾向があるのではないか。

部会長：武蔵野市には約 3,500 人の外国人が住んでいる。今回は国籍を聞いておらず、回答者の中で外国人が答えたのかどうか不明だが、外国人の意見をどのような形でとらえられているのか。

事務局：外国人も含めて送付をしているが、回答者に属性を振っていないため、その視点で分析をすることは難しい状況になっている。

部会長：何かコミュニティーというか、センターなどあるのではないか。

事務局：詳細についての説明は難しいが、「MIA（武蔵野市国際交流協会）」という団体があり、そちらで支援等を行っている。

部会長：可能であればそのような団体からヒアリング等をやっていただけるとありがたい。

委員：子宮がん検診を受けた人たちの中に、妊婦さんたちの妊婦健診の子宮がん検診を受けた人は含まれるのか。逆に受けなかった理由として妊娠したからというのは入っているのか。

事務局：妊娠した時の妊婦健診の検査の数字は妊婦健診票で実施しているので、数字としては入っていない。

委員：妊婦健診の子宮がん検診を受けている人を含めると、年間の子宮がん検診を受けている方の数字が大分上がると思うので、子宮がん検診票を使わなくても妊婦診療で子宮がん検診を受けている場合は、市の補助を受けて検診を受けていることになるかと思うので、数字として入れていただいた方が、検診率が上がっていくと思う。

事務局：子宮がん検診の受診率については、東京都の指針に沿って行っている一般的な市民検診となっており、妊婦の方の妊婦健診の一括の子宮がん検診はこちらで把握できていない状況。東京都への報告の数字というものがそのようになっていて、現在のところのパーセンテージを出している。

部会長：ただ、実質的にはもう少し高いのではないかということ。その上で、届出をしている値は低いけど本当はもっと多くの方が受けていることを示すことができる。可能であれば、そのようにしていただけるとありがたい。

副部長：妊娠届や妊婦さんで、数字の中に外国人の方が含まれていると思うが、外国人の方は言葉が通じないところで、育てにくさを感じたりすることもあると思う。その辺り、もし実態などが分かれば教えていただきたい。

事務局：市では外国語版の妊娠届出書を作成しており、母子健康手帳についても、4種類（英語・中国語・韓国語・ネパール語）の外国人用の母子手帳を交付している。そして、妊娠届出時には、ゆりかごむさしの面接を実施しているところだが、体調の状況、経済的状況、心身の状況、出産に向けての困りごとなどを丁寧に聞き取って、妊娠中または産後早期も困りごとのないように努めている。こちらでは助産師や保健師が配置されているが、言語については、オンライン通訳サービスを使用し、外国語が話せる第3者の通訳者を介して、目の前で顔を見ながら、コミュニケーションをとりつつ聞き取りをしている。そして、そのような方は孤立してしまう可能性が高いため、地区担当保健師がついて、支援している。

部長：昨年度の妊娠届書の件数はどれくらいか。

事務局：妊娠届出は1年間に1,301件受けたが、そのうちどのくらいの方が外国人の方であるかについて手元に資料がないため、追って確認する。

委員：子どもの権利条例の絡みで、小中高校生あたりのアンケート等は考えていないのか、また子どもの意見を聞く機会はないのか。

事務局：アンケートは18歳以上に行っている。学校の計画、教育委員会の計画策定の際に、アンケート調査を直接子どもに行っている調査もある。例えば食に関する質問なども聞いている。そのあたりの結果も補足的にとらえていきたいと考えている。

部長：そのあたりのデータに関しては今後、報告していただけるのか。

事務局：そのように考えている。

委員：人間ドックの受診状況やその他のがん検診は、新型コロナの影響などは含まれないのか。

事務局：健康診査、がん検診について、新型コロナの影響で受診者数が減っている。ただ今回の調査の中では聞いていない。

副部会長：資料の34ページに「育てにくさを感じる」が月齢ごとにあり日常の相談がその下枠の中にあるが、実際にその育てにくさを感じるという方々に対して、どのような支援をされているのか、数字だけではない具体的な部分をお聞きしたい。

事務局：「育てにくさを感じる」かどうかについては、乳幼児健診の間診の際に保健師または助産師が一つ一つお聞きしている。例えば、3～4か月児健診では、なかなか夜に寝てくれない、ミルクや母乳を飲んでくれない、1歳6か月児保育相談では、イヤイヤ期や偏食、3歳児健診では更に多岐にわたるが、一つ一つ話を聞き、必要時子ども相談という、個別のブースでゆっくり話を聞いている。乳幼児健診当日でなくとも、別日に相談の予約をすることもできる。孤立して子育てしている等支援が必要と思われる家庭については、地区担当の保健師が、継続的に相談支援をしている。外国人の方については先ほども話があったように、タブレット端末等を使って通訳を介し、相談を受けている。

副部会長：ただ単に「育てにくさ」を感じる方々の数字だけでなく、どのように支援をしていくのかソフト面としてはとても大事なことであるのでお聞きした。

部会長：「育てにくさ」を感じる設問の回答で、1歳6か月がかなり改善している。これはどのような要因で改善されたのか、現場での感覚はどうか。

事務局：コロナ禍で父親が在宅勤務になった家庭が増え、母親1人でしていた子育てに父親が参加するようになった。また、母親へのアンケートでは「日常の育児の相談相手」について、「夫婦で相談」が増えている。それらの結果から、夫婦で子育てをしている家庭が増えたことが影響しているのではないかと感じている。

委員：民生児童委員は、一人暮らしの方の訪問調査をしているが、それと並行して、保健師さんたちがなさっている赤ちゃん訪問に同行するような形で、民生委員がお手伝いできることを、数年前のコロナ前に勉強させていただいた。種々の事情で、その計画が立ち消えのような状態になっているが、そのような育てにくさを感じているお母様たちがいらっしゃるとなると、地域の中で隣に住んでいる民生委員が目にするところは大きいので、お手伝いできることがあったらいいと思う。

(5) 武蔵野市第4期健康推進計画・食育推進計画及び武蔵野市自殺総合対策計画の目標値の達成状況について

事務局より資料に沿って説明

委員：41 ページ、特定健康診査を受けている方が 52.4%から 48.2%に低下していて、これは多分コロナの影響であると思いますが、ところが、43 ページのがんの受診率は、軒並み上がっている。これらをどのように分析されているのか。行政で何か分析をされたら教えていただきたい。

事務局：まず、胃がんと肺がんについては、環境が大分変わったことにより、平成 28 年度に比べるととても増えている。これについては、例えば肺がん検診は健康づくり事業団での実施だけではなく、市内の医療機関にやっていただけたこと、胃がん検診についても、同じく事業団のエックス線検査だけでなく、令和 2 年度には市内医療機関の個別検診という形で内視鏡検査が始まったというところがある。乳がん検診については、令和元年度から申込受診方法を変更し、受診者が伸びたというところがある。それまで受診したい方が受診票を発行していたが、前年度未受診の方に送り、受診してくださいという方法をとったため増えたと考えられる。

委員：胃がんについて、平成 28 年度はバリウム検査のみか。

事務局：その通り。

委員：令和 4 年度は事業団のバリウム検査と、医療機関の内視鏡検査を行ったということで、検査の内容が違うということか。

事務局：その通り。乳がん検診は事業団による集団検診も、この間に始めている。

委員：先ほど都に報告する内容をそろえているという話があったが、この会は武蔵野市の推進計画の会議なので、独自の数字が出てきてもよいのでは。武蔵野市の市民の健康を考える会なので、市以外で行っているがん検診の数字を把握するのもいいことだと思う。できたら、次回の計画でも、市の検診以外のがん検診を受けている数字があるとよいと思う。

事務局：がん検診について、市の検診を受けていない方についてはこちらで把握できないため、特別にアンケートをとらないと件数が把握できない状況である。

委員：そういうことを考えていただけると、実質何%の人が検診を受けているかがわかるので次回の会でご検討いただければ思う。

事務局：東京都に提出する数値のものとは別に、市の検診以外でも人間ドックを受けている方なども含めた数字が出せないか、今後検討させていただきたい。

部会長：今回の市民アンケートの中では、がん検診を受けているのか聞いている(問 35)。もちろん回収率もあるが、年齢層別の解析がされているので、対象となっている年齢層のうち何パーセントの方が受けているのか推測はできると思う。

(6) 武蔵野市第六期長期計画・調整計画の進捗状況について
事務局より資料に沿って説明

(7) 近年の動向の整理について
事務局より資料に沿って説明

部会長：もしご質問、ご意見等ございましたら、質問・意見提出用紙があるのでご記入いただき提出いただきたい。

事務局：先ほど、北島部会長の方からもご案内いただいたが、本日のお話の中で、ご質問、ご意見ありましたら先ほど用意した用紙をお出しいただきたい。来週 23 日(火曜日)までに事務局にファックスでご提出いただければと思う。書式は送らせていただく。

本日の議事内容については議事録として取り纏めさせていただき、委員の皆様にご覧いただいた後に、ホームページに掲載をする。速やかに皆様にお送りするので、ご確認をお願いしたい。

次回については明日以降、速やかに皆様に日程調整表をメールで送らせていただく。

また第 3 回から 6 回までの会議についても合わせて日程調整をさせていただき、皆様のご予定を入れさせていただく。また次回は各調査から見えてきた課題などについてご意見をいただきたいと考えている。

部会長：所々で他部門との連携という言葉が出てきたが、この会に参加されている方は色々な分野から参加されている。健康、食育、自殺対策というのは本当にいろんな分野の方が力を合わせてやっていくことになるので、今日のように皆さんで議論をされていきながら良い計画ができるようにしていきたいので、引き続きよろしくをお願いしたい。

閉会